

特集 ◆ 世界遺産10周年 知られざる 熊野古道、吉野、高野山

豪華なものではなくて自然の山  
野草。さりげなくて素朴なおも  
てなしを私も大切にしていきた  
いと思うんです」。

次世代に残すべきものは、世  
界遺産の景観だけではない。  
脈々と受け継がれてきた、もて  
なしの心が欠かせないことを教  
えられた。

里の魅力を伝えていこうとい  
うのが中峯さんならば、山の信  
仰文化を守ろうとする人もい  
る。大峯奥駈道の保全活動をし  
ている「新宮山彦ぐるーぷ」の  
沖崎吉信さんだ。

大峯奥駈道は吉野と熊野を結  
ぶ約170<sup>km</sup>の修験の道。険し  
く峻険な尾根道で、初心者が安  
易に入れる山ではない。そこに  
分け入って整備をしているとい  
うのだから、どんな強面の山男  
かと思っていたら予想は覆され  
た。物腰やわらかな沖崎さん  
ほっとしつつ、ガツシリした体

思いの詰まった信仰の道をなくすわけにはいかん

—— 沖崎さん



おきどまよしのぶ  
沖崎吉信さん(66)

1948年和歌山県新宮市生まれ。63歳  
で新宮市の企業を退職し、登山愛好  
家団体「新宮山彦ぐるーぷ」の事務局  
として活動を続けている。同会が大  
峯奥駈道の再興と整備、保全を始  
めてから今年で30年。



登山者の  
安全を守る  
手製の道標

つきを見て「やはり」と思う。  
沖崎さんに同行し、奥駈道と  
林道が交差する峠に向かった。  
一緒に山道を歩き始めると、あ  
ちこちで登山ルートを示す道標  
を見かけた。

「道標が朽ちて方角が分から  
なくなったら命に関わります。  
大峰山脈では滑落や遭難の事故  
が毎年のように発生する。奥駈  
道を歩く人が迷わんように、私  
らは毎週歩いて補修をやっ  
とるんです」

奥駈道の世界遺産登録に、彼  
らが果たした功績は計り知れな  
い。明治5年の修験道禁止令以  
降、南奥駈道(熊野本宮大社か  
ら吉野山方向に約45<sup>km</sup>の辺りま  
で)は草に埋もれて荒れ果てた。  
それを憂いて整備を始めた先人  
の意志を受け継ぐ形で、3年を  
かけて刈り開いたのだ。

「1300年も続いてきた山  
岳信仰の道やから、なくすわけ

にはいかん。作業で寝泊まりす  
るための山小屋も、自分らで建  
てたんですよ」。南奥駈道がよ  
みがえり、縦走を再開できたの  
は1986年のこと。現在では  
当時の仲間も高齢化し、66歳の  
沖崎さんが一番若い。

「この活動も、そろそろ次の  
世代に手渡す時期です。そやけ  
ど引き継いでくれる若い人がお  
らんのでね」。そう言いながら  
30<sup>km</sup>近い丸太を「よいしょ」と  
背負う。間伐材を集めて新しい  
道標を作るそうだ。

「私が作った道標は、まだ  
100本ほどやけど、その何倍  
も作った先輩がいますよ」。そ  
れを聞いて思わず絶句している  
と、「山道の保全は、誰かがや  
るべきこと」と沖崎さんは続け  
た。熊野信仰を陰で支え、古道  
の歴史を守り伝える人々。沖崎  
さんもまた、そんな「熊野びと」  
の一人だ。

